

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：鶴岡市三瀬地区自治会

活動地域：山形県鶴岡市

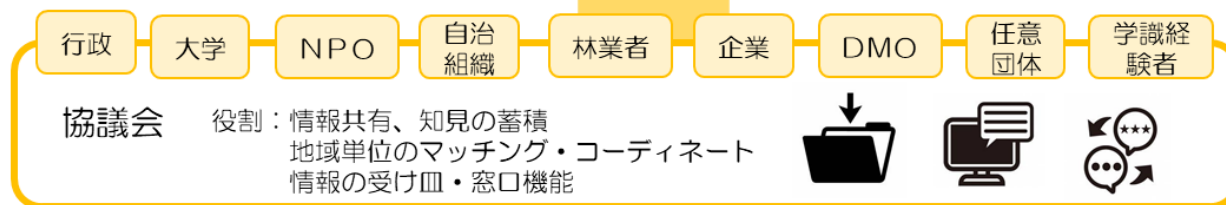
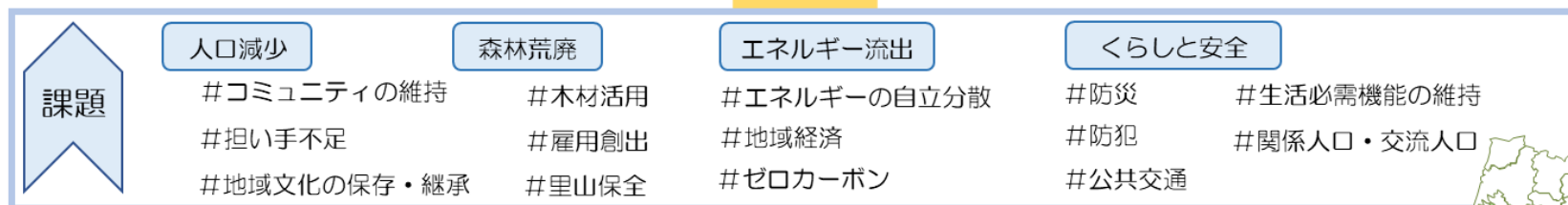
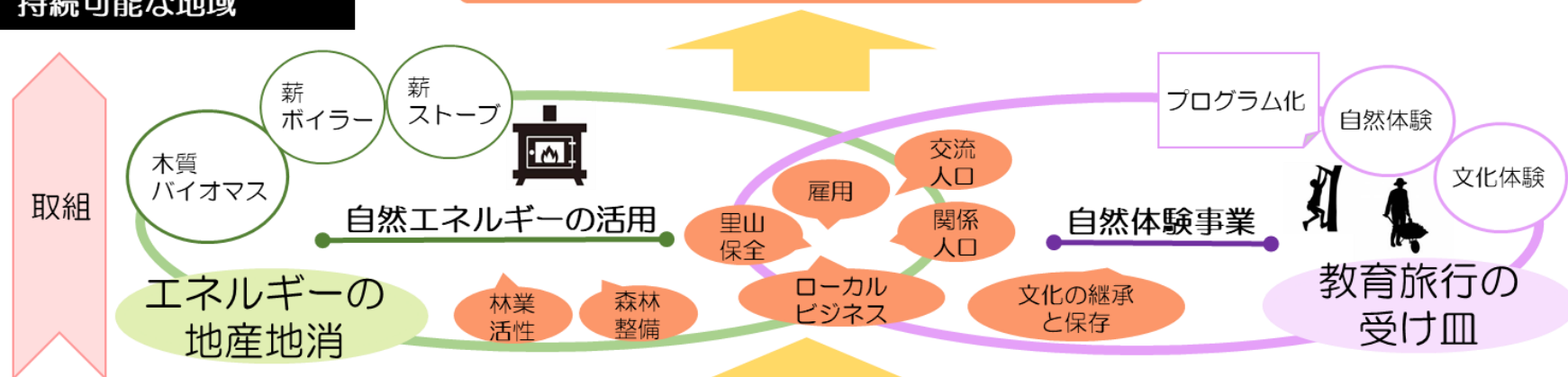
三瀬(さんぜ)イズム
～住むを楽しむコミュニティ～



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地域の資源を活かして
担い手が活躍する
持続可能な地域

持続可能な暮らし続けられる地域



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

☆今年度の目標→連携予定団体、地域との情報共有・課題抽出、方向性確認の上、協議会（任意団体）を設立

☆「自然エネルギー（特に森林資源）」と「自然体験」の2つのグループに分け、連携予定団体・地域でワークショップを実施。実施に当たっては山形大学、東北公益医科大学の教授・学生とも連携し内容を状況により変えながら対応した。

「自然エネルギー」グループ5回、「自然体験グループ」6回実施。

→結果的に協議会設立までは至らなかったが、内容を整理し次年度早い段階で設立したい。

☆自然体験の担い手確保や実施者のスキルアップ、課題共有のための研修会を実施。

☆地域内外への事業発信→イベント「山の感謝祭」を予定していたが、中止。

代わりに内外に発信できる冊子を作製。今後、地域内とステークホルダーに配布。

☆本事業を発信するため、事例発表等2回実施。地域循環共生圏やSDGsの授業を地元中学校に2回実施。



多方面を巻き込みながら 多様な課題の 多彩な同時解決！

ワークショップ等実施実績

由良地区

自然体験



遊佐町

フーデライト 庄内

自然体験



庄内体験活動協議会

自然体験





多方面を巻き込みながら多様な課題の多彩な同時解決！

ワークショップ等実施実績

自然体験総WS

自然体験



森林資源総WS

森林資源活用





多方面を巻き込みながら多様な課題の多彩な同時解決！

とりあえず今年度目指すのは協議会（的なもの）の設立

ワークショップ等を踏まえた課題整理踏まえて
次年度に向けた方向性

森林活用総WS

森林資源活用

→ 地域ごと課題や取り組みが多岐にわたる

- ☐ それぞれの地域、知らないことが多い共有・発信を
- ☐ コロナ禍だからこそ近い庄内地域でリアルな交流を
- ☐ それぞれの地域での取組・実績等の知見を蓄積
- ☐ 森林にとどまらず持続可能な地域の暮らしを模索
- ☐ 課題を庄内広域で考える仕組み・場所を構築



まずは自然エネルギーを切り口に地域間交流を。
持続可能な地域になるため課題解決する協議会を。



多 方面を巻き込みながら 多 様な課題の 多 彩な同時解決！

とりあえず今年度目指すのは協議会（的なもの）の設立

ワークショップ等を踏まえた課題整理踏まえて
次年度に向けた方向性

自然体験総WS

自然体験

→ すでに活動が活発で課題が明確。

- プログラムの整理、内容充実
- 発信の一元化、受信の一元化、営業力強化
- 人材の交流（互助システムも）、人材の発掘・育成
- 持続的な収益構造の構築と雇用
- 課題を庄内広域で考える仕組み・場所を構築



協議会というよりは課題解決のための会社組織？？
次年度さらに内容を詰め、担い手確保→起業を！！

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	自然エネルギー活用地域協議会		
	概要	まずは森林資源を活用することで森林整備と地域活性化の同時解決を目指す。木の駅システムの導入やチップ製造販売などを想定。 森林資源にとどまらず風力発電や水力・太陽光発電など多岐にわたる自然エネルギーの導入地域知見の蓄積も行う。		
	課題・ボトルネック	各地域団体の理解促進 地域材の出口（販売利用先）の確保	力を借りたい人物・企業像	自然エネルギーを活用する企業・自治体など 事業内容を適切に伝達できるコミュニケーターなど

2	事業名	自然体験事業者プラットフォーム		
	概要	地域資源である農業漁業林業、能や歌舞伎などの伝統芸能、信仰と関連した食文化などを利用し、個人旅行はもちろんのこと、インバウンド、教育旅行などにも対応したプログラムを共同で作成・発掘し、地域全体を担い手によりすみ分け、余すことなく活用するとともに、外部への発信・営業により地域内外の経済循環を作る。		
	課題・ボトルネック	団体それぞれの利害関係調整 事務局の担い手 資金確保	力を借りたい人物・企業像	資金提供者 事務局担当可能な担い手

3	事業名	〇〇〇		
	概要	～～		
	課題・ボトルネック	～～	力を借りたい人物・企業像	～～

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 「会議に出席するまでではないが協力してくれる」という準ステークホルダー的な人々もいる。今後さらなる協力をもらえるように巻き込み方を工夫する。

地域のコンセプトを描く！

- 改めて、本事業は「担い手」が重要な要素であることに気が付いた。担い手となる地域や団体が最大限活躍できるためのプラットフォームづくりであることを忘れずに取り組みたい。

事業のストーリーを語る！

- 採算性や持続性の部分まで各ステークホルダーに伝えきれていない。事業の良さ、大切さは理解してもらっているが理想論になってしまっている。現時点でも手一杯なのに新しいことができない状況が特に地域にある。打破していきたい。

地域の目標を立てる！

- 地域で80回ほどワークショップを重ね約3年かけて作った地域ビジョンに事業のベクトルを合わせる必要があるとあらためて感じた。

今年度の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

☆「自然エネルギー活用地域ー協議会」の設立については、ステークホルダーに内容や意図が伝えきれていない。地域ごとの課題やすでに取り組んでいる内容等多岐にわたり、1度だけのワークショップで共通の認識を得られる部分は限られた。

☆任意の協議会であれ、活動資金は必要。

☆「自然体験事業者プラットフォーム」についてはすでに個々に活動しており、課題が明確。また、グループをつくりどのような内容を担えば現状の活動がさらに良くなるかも話合われた。協議会という任意団体ではなく、法人（NPOや株式会社）の組織で活動した方が良い。事務局の担い手と資金が次年度の課題。

☆双方の協議会の課題としては「情報発信」。多世代に広く周知するための様々な手法を使う必要がある。またマスコミの巻き込みも必要。

今後の展望

- 「自然体験事業者プラットフォーム」の事業化。金融機関との検討を行うとともに、担い手となる人材の発掘を早急に行う。コロナ禍で近場の体験教育旅行需要が急増している。プログラム開発など含め継続的に本地域を利用してもらえるよう仕組みを作る。
リアルな体験、ネットを通した2次的な体験でないものは必ず価値がある。
- 「自然エネルギー活用地域協議会」は地域間の交流、今年度事業の内容各地域の話し合いの内容をさらにフィードバックし、ステークホルダー地域と交流を深める。こちらもコロナ禍で不足しているリアルな交流を中心に自然エネルギーによる地域活性化の勉強会・研修などを行う。
- 上記の地域間の交流により第3の事業のタネを探す。地域間の交流が互助の防災対策、減災対策につなげられないか検討する。地域間ボランティアの体験交流の事業化。